

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	こども - 10		放課後子ども総合プラン等管理運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	こどもみらい部 青少年課				評価者	青少年課長 安富 誠人		
一般	会計	款	15	項	10	目	5	
総合計画上の位置付け	分野名	子育て			施策の方針名		子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	市内に居住する小学生及び乳幼児等	意図	全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うため。
効果	地域等の協力を得ながら豊かな時間を提供することで、次世代を担う児童の生きる力を育む。 待機児童の減少を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	放課後かまくらっ子の管理・運営（指定管理）	放課後かまくらっ子の管理・運営（指定管理）	放課後かまくらっ子の管理・運営（指定管理）
予算額（千円）	661,372	673,726	
国県支出金	160,156	173,648	
地方債			
その他	31	26	
一般財源	501,185	500,052	0
当初人員配置数	4.8	3.8	0.0
人件費（千円）	19,510	18,859	0
事業実績	放課後かまくらっ子の管理・運営（指定管理）		
決算額（千円）	603,735		
国県支出金	86,939		
地方債			
その他	26		
一般財源	516,770	0	0
人員配置実績数	4.8	0.0	0.0
人件費（千円）	19,052	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	全小学校区放課後かまくらっ子実施数	箇所	16	⇒	16		
	実績につながる活動	全小学校区において放課後かまくらっ子を実施し、管理・運営のための指定管理者の更新等を実施した				603,735		
活2	指標名	放課後かまくらっ子におけるプログラムの実施回数	回/月	4	↗	4.6		
	実績につながる活動	地域人材・大学生の外部人材等と協働したプログラムを実施した				活1に含む		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うための環境を維持することができている。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果 指標No (最大3つ)
成1	放課後かまくらっ子継続利用率（小学校1年生～3年生の4月1日時点登録者が、翌年3月31日まで登録していた割合 途中入所者は除く）	%	未実施	⇒	未実施			1 2
成2	放課後かまくらっ子登録率（登録者数/全児童数。4月1日時点）	%	45	↗	45			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・成果指標No. 1 について、令和8年度から成果指標の集計を予定しており、令和7年度実績はない。 ・成果指標No. 2 について、令和7年度は、令和6年度の45%から横ばいとなっている。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・プログラムの実施等により、放課後かまくらっ子への登録が促進したと考えられる。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	■ 増えている	□ 変わらない	□ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	■ 市	□ 国・県	□ 民間事業者 □ なし
	有効性	事業の成果	□ 十分に出ている	■ 概ね出ている	□ 出していない
	効率性	事業費削減余地	□ ある	■ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	□ できる	■ できない	
方向性	評価実施年度の方向性		⇒	評価実施翌年度以降の方向性	
	事業内容の方向性	■ 事業内容は現状通り □ 事業内容は見直し済 □ 事業を休止又は廃止済 □ 他事業と統合済	⇒	■ ① 事業内容は現状通りとする □ ② 事業内容は見直す → □ 拡大 □ 縮小 □ その他 □ ③ 事業は休止又は廃止する □ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	□ 予算規模は現状維持 ■ 予算規模は拡大済 □ 予算規模を縮小済	⇒	□ ① 予算規模は現状維持とする ■ ② 予算規模は拡大する □ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	放課後かまくらっ子と学校との連携をより強固にすることで、より児童にとって利用しやすい環境を構築する必要がある。	
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性あり	学校施設との連携	
	総評	・各取組について、概ね計画通りに進んでおり、引き続き取組を進めていく。 ・予算規模については人件費高騰等の影響を受け、今後も指定管理料の増額などが予想されることから、より費用対効果も鑑みながら事業を実施する必要がある。			上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	放課後子供教室設置状況（放課後子供教室数 / 公立小学校数）								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	16校/16校	7校/35校	17校/19校	2校/29校	—	—	未実施	5校/5校	—
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		平成30年から令和2年度の3か年で、市内全16小学校区全てで放課後かまくらっ子を実施を実現させた。近隣市に比較すると、充実していると考えている。							